

幼稚園では文字教育より、情操教育や友だちづき合いなど、別にすべきことがあるのではないか。

情操教育や、友だち間のつき合いなどほっておいて、漢字教育をせよ、と言っているのではありません。石井方式は、“漢字を教える”教育ではなくて、“漢字で教える”教育だということをよく知っていただきたいと思います。

石井方式を実施している幼稚園では、従来の六領域の学習に、漢字学習を加えて、七領域とするようなことは、どこもしておりません。あらゆる学習の中で、その中心となるものを、漢字で書いて示すだけで済むものです。

“石井方式・漢字教育”を取り入れたために、他の傾城の学習が削られた、ということは絶対にありません。もし、あったとしたら、それは、ほんとうの石井方式ではありません。間違ったやり方をしているためです。

石井方式は消化剤のようなもので、学習することによって負担を増すものではなくて、負担を軽くします。この教育を取り入れたために、あらゆる学習が活発に、能率よく行われ、効果が高まった、という報告

は、私のところにたくさん集まっています。

次に、「漢字を最もよく覚える時期は、幼児期である」ことがその理由です。

現在の教育では、小学校の中学年以後、中学・高校で漢字を学習させるようにしています。しかし、私の実験によれば、漢字の学習は、三歳から四、五、六歳くらいが最もよく漢字を覚える時期で、それ以後は、衰える一方なのです。

だから、今の漢字学習は、学習時間の多い割合に効果がないのです。小、中学生の九年間に、一千字の漢字を覚えさせることは容易ではありませんが、幼児期の二年間に一千字を覚えさせることは容易です。

どんな教科の学習でも、本を読んで、書かれてあることの内容を理解することが基本です。そのためには、漢字を数多く、正しく理解していなければなりません。

幼児期の、最も負担の少ない時期に、漢字を数多く学習させ、正しく理解させておくことは、他の何事にもまして重要なことのひとつである、と確信しています。